

ルネサスの経営責任を問う

ウルフスピードの失敗について説明を求める

7月22日（火）に、電機・情報ユニオンは第5回目となる会社との団体交渉を行いました。会社からは過去4回と同様に事業部長相当職らが出席されました。ユニオン側からは組合員7名のほか、東京地評の久保組織局副局長、群馬県労会議の小野里事務局長を加えた計9名が出席しました。

今回の交渉では、最近明るみになった米半導体企業ウルフスピードの経営破綻にともなって発生した多大な損失の状況と、その経営責任について追及しました。

ルネサスは、パワー半導体の材料となるSiC（炭化シリコン）のウェハの安定供給を受けるため、ウルフスピードに対して約3000億円の預託金を拠出していました。しかし市況の変化等の影響から同社が経営破綻に至り、今後の経営再建のために預託金を同社の株式と新株予約権に転換したと言います。この措置により、今年度の1～6月期は2350億円の損失を計上することとなりました。最終損益は1735億円の赤字となります。

電機・情報ユニオンは、ルネサスの「指名解雇」リストラと定期昇給見送りの撤回を求めて交渉を続けてきました。このような社員へのしわ寄せが、経営状況の悪化によるやむを得ない施策としてではなく、大幅な黒字を計上しながら、なおも会社の「勝ち残り」を目指してM&Aや配当に莫大な資金を投入する経営の一環として実行されていることを問題視しています。今回の最終損益の赤字もまた、今後の追加的リストラ施策によって社員に責任を転嫁する形で埋め合わせが図られる恐れがあり、そうなる前に厳しい追及が必要と判断しています。

半期で1年分の営業利益に匹敵するほどの莫大な損失が生じたのは、純然たる経営判断に基づく失敗です。したがって柴田CEOに重大な経営責任があることは明かです。その責任をあいまいにしたまま、「指名解雇」リストラのような施策を繰り返すことは絶対に許せません。

また、会社が今年見送った定期昇給に必要な金額は、たかだか20億円程度ではないかと推定しています。この金額を「節約」するために社員の生活を平気で犠牲にした会社には、これと桁違いの損失を出したことに對する相応の責任が問われて然るべきです。どのような形で責任を果たせば、これまで社員に負わせ続けてきた厳罰とも言える処遇との釣り合いが取れるのか、次回交渉では柴田CEO自身からご出席いただき、関係者が納得できる説明をされるよう求めます。

＜7月22日 第5回団体交渉に臨む交渉団＞



ルネサス懇

ルネサス関連労働者懇談会

E-Mail : renesaskon@gmail.com

Web site : <http://www.renesaskon.net/>

住所 : 〒142-0043 東京都品川区二葉2-20-8

染野ビル2F 電機労働者懇談会気付

TEL : 03-6421-5323 FAX : 03-6421-5324

一人でも入れる 困ったら

電機・情報ユニオン

〒142-0043 東京都品川区二葉2-20-8

染野ビル2F

Tel03-6421-5323, Fax03-6421-5324 Email : denkiunion@gmail.com



高崎工場は、パワー半導体事業はどうなる？

ウルフスピードの件と関連して、会社はS i C事業も停止しています。これにともない武蔵事業所などでも関係する部門のリストラがされていて、6月末付けで退職者も出ているようだと報告もあります。

特に心配されるのは、S i C関連の主力工場にする計画だった高崎工場の今後です。工場自体の存続を危ぶむ声も聞こえてきます。仮に高崎工場が閉鎖となれば、ルネサスのみならず地域の経済にとっても深刻な打撃となります。今回の団体交渉では、高崎工場の存続についても問い質しましたが、会社からは具体的な回答が得られませんでした。出席された群馬県労会議の小野里事務局長は、何も明らかにしないまま社内外の関係者を不安の渦中に据え置くのではなく、きちんと説明責任を果たすことを、会社に対し求めました。

一方、社員からは「高崎工場の存続についてはみんな心配しているけど、社内ではまったく話題にも上らない。厳しいかん口令が敷かれていて、関係する部長級以上の管理職しか知らないのではないか」、「7月末にルネサスグループ連合の会長と柴田CEOとの対談のライブ中継があったけれど、高崎工場について組合側は何も追及していなかった」と言う話を聞いています。

今後もし不穏な動きが出てきましたら、電機・情報ユニオンまで情報をお寄せください。

電機リストラ反撃交流集会を開催しました

電機労働者懇談会および電機・情報ユニオンは、8月10日（日）に第7回目となる「電機リストラ反撃交流集会」を開催しました。この集会は、電機の各職場でどのようなリストラが起きているのかを知り、たたかいの経験を共有し理解を深めることを目的として、2019年の第1回目から毎年夏に開催しているものです。今回メインに取り上げたのは、パナソニックの1万人黒字リストラと、ルネサスの「指名解雇」リストラでした。

電機・情報ユニオンの成木委員長からは、ルネサスのたたかいについての基調講演がありました。成木委員長はルネサス発足時からの経緯をおさらいし、ますますひどいリストラを繰り出す会社に対して、これを広く社会問題化することで成果を上げていることなどを簡潔に分かりやすく説明されました。

集会には日本共産党の辰巳孝太郎議員にもTEAMSで出席いただきました。辰巳議員からは、ルネサス問題について国会で追及し、経産大臣から必要な対応を行うといった答弁を引き出した成果などについて報告をいただきました。

群馬県からは、高崎工場の駐車場の車が減っていて、人員が激減しているようだと報告がありました。工場自体の存続への懸念から、県労会議と協力して対策会議を立ち上げるとの報告もありました。

茨城県からは、ルネサスエレクトロニクス発足当時から地域の活動を継続しており、門前ビラの受け取りも良いとの報告がありました。

最後にユニオンの米田特別執行委員から、議論のまとめがなされました。ルネサスの団体交渉については、個人の労働問題ではなく企業の経営問題を交渉の俎上に載せている点が画期的であり、歴史的にも重要な交渉ができていることが示されました。また、ウルフスピードの問題に関しては、減損損失によって会社の資産が大幅に目減りしていて、内部留保を取り崩す形になっているとの指摘がありました。リストラや賃下げによって社員から吸い上げて積み上げた内部留保を、経営の失敗の埋め合わせに使って知らん顔をしているなど許し難いことであるとの認識を共有しました。

